

第16回 四国の港湾における地震・津波対策検討会議

今後の訓練計画（案）

訓練計画(案)作成の目的

○訓練計画（案）作成の目的

各組織において、防災担当が人事異動等により対応力の積上げが非効率であること、また、手順書や手引き 5 編等をくまなく計画的に検証する必要があることから、5 箇年の訓練計画（案）を作成し、実効性向上を図る。

○作成時期

第 1 7 回四国広域緊急時海上輸送等ワーキンググループ
(R6年11月頃開催予定)

訓練計画(案)の実施方針(1/2)

今後の訓練計画(案)に基づく訓練は、以下の実施方針により立案する。

1. 訓練目的

- ・緊急確保航路等航路啓開計画(以下、航路啓開計画)、手順書や手引き5編等を計画的に検証(課題や問題点の洗い出し)する。
- ・最悪の事態にも適切な判断や意思決定ができるように対応能力の向上を図る。
- ・多様な訓練方法を実際に体験することで経験を積み、身体感覚を身に付けて習熟を図る。

2. 訓練参加者

- ・訓練実施者(プレーヤー)の参加機会を増やし、各役割に応じたスキルの向上を図る。

3. 対象エリアの課題

- ・単一県にこだわらず、複数県に跨がる広域なエリア(複数港湾及び海域)や四国全域の設定を検討する
- ・四国地方整備局管内の各港湾、各海域が有する航路啓開上の課題を取り込む。

4. 他機関との連携

- ・関係する他機関(四国地方整備局道路部・防災室/災害対策マネジメント室、他地方整備局港湾空港部、第五・六管区海上保安本部、港湾管理者、災害協定団体等)との連携を図る。

5. 情報機器・システム等の利用訓練

- ・ドローンや衛星画像等、状況に応じた情報・通信機器類の利用の検討・習熟を図る。

6. 訓練方法

- ・各年度に設定したプロセスマッピング方式、読み合わせ方式、ウォークスルー方式、ロールプレイング方式等訓練方法を用いてテーマに沿った訓練を実施。

7. 訓練テーマ事例

- ・各種情報通信機器の操作
- ・航路啓開（港湾区域内を含む）
- ・揚収物（あるいは回収物）の陸揚げ
- ・揚収物の陸上、海上運搬
- ・ドローンでの映像同時配信等

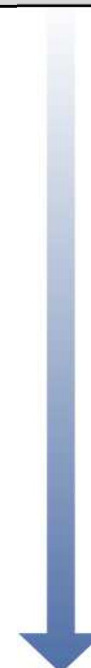
8. その他

- ・直近災害の実施事例（令和6年能登半島地震等）を情報収集し、行動内容の実現性や必要事項を精査する。

訓練計画(案)のイメージ

四国の広域海上BCPにおいて、緊急確保航路等航路啓開計画の実効性向上を図るための訓練について5箇年計画(案)を策定する。

- ・全体の訓練計画は5年を1タームとし、対象エリアを2つ(2県以上に跨がる広域エリアと四国全県域)に分ける。
- ・各年度の訓練内容(テーマ)は、前年度訓練で抽出された課題等を踏まえて、当該年度W.Gで議論し、決定する。
- ・航路啓開計画(手引き、マニュアル等)と広域海上BCPが実災害で活用できるか、各年度の訓練で検証し、必要に応じて改定する。

年度	検討内容	訓練方法	目標	スキル	
R6	<ul style="list-style-type: none"> ・「南海トラフ地震に対応した四国の広域的な海上輸送の継続計画」の検証 ・「緊急確保航路等航路啓開計画」及び手順、手引き等の検証 	(訓練方式) 【教育】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・ワークショップ ・研修 ・TEC-FORCE等による実務経験・報告会 等 【机上訓練】 <ul style="list-style-type: none"> ・DIG方式 ・プロセスマッピング方式 ・読み合わせ方式 ・ウォークスルー方式 ・ロールプレイング方式 等 (テーマ事例) <ul style="list-style-type: none"> ・各種情報通信機器の操作 ・航路啓開(港湾区域内を含む) ・揚収物(あるいは回収物)の陸揚げ ・揚収物の陸上、海上運搬 ・ドローンでの映像同時配信等 ※テーマはWGで決定	役割確認 手順の理解 ・具体化	 向上	
R7					手順の習熟
R8			手順の更なる習熟		
R9					
R10					

[参考]訓練に関する補足資料

広域 BCP等に適用できる机上訓練手法の概要

区分	手法	特徴	効果	事例	備考
教育	講義	・ 講義やビデオ学習により、BCPに基づいた災害対応を実施する際に必要な、組織や個人の行動の範とすべき情報や知識、考え方を理解する。	・ 知識の習得 ・ BCPの理解 ・ 情報共有	・ 広域BCP等の講習会 ・ 広域BCP等教材によるビデオ学習 ・ 各港BCP等の発表会	
	ワークショップ	・ あるテーマについて、グループで付箋等を使って話し合い、課題や対応策を話し合う。	・ 課題抽出・見直し ・ 手順の検討	・ 広域BCP等見直しの検討 ・ 手順の検討	
机上訓練	D I G (Disaster Imagination Game)	・ 災害時の被害や対応を具体的にイメージし、図面等に記載しながら、参加者全員で地域災害リスクや対応策等について議論を行う手法。	・ 災害時の被害・対応のイメージと理解、共有 ・ 課題抽出	・ 被害想定訓練 ・ 災害対応イメージ訓練	
	プロセスマッピング	・ あるプロセスの流れを視覚的に表した図を作成する。 ・ 各機関が発災時に行う活動や関係者間の連携等を書き出し、不足する活動や必要な連携等について演習する。	・ 広域BCP等の手順の理解と具体化、共有	・ 広域BCP等の具体化 ・ 手順書の検討	
	シナリオ読合せ	・ 発災後の活動について、シナリオを作成し、参加者が自組織の役割に応じた台詞を順に読み上げ、発災後の活動手順と自組織と関係機関の役割を確認する。	・ 発災後の活動の手順と役割の理解	・ 航路啓開の読合せ訓練 ・ 緊急輸送の読合わせ訓練	手順書があることが望ましい
	ウォークスルー	・ あらかじめ決めた発災後のシナリオに基づき、発災後の活動を手順に従い一通り行う。	・ 手順の理解、習得、改善	・ 情報伝達訓練	手順書が必要
	ロールプレイング	・ 刻々と変化する状況を付与し、時間内で処理させることで対応力を鍛える。 ・ 参加者にシナリオを示さず、どのように行動すべきか参加者に判断させる。	・ 手順の理解、習得、改善 ・ 対応力強化	・ 災害対策本部設置訓練 ・ 広報訓練	手順書が必要